

第2章

かながわを取り巻く 都市づくりの課題

- 1 少子・高齢化と人口減少社会
- 2 産業構造の変化
- 3 環境との共生
- 4 安心して暮らせる都市づくり
- 5 地域主権改革の進展と
多様な主体による都市づくり

01 少子・高齢化と人口減少社会

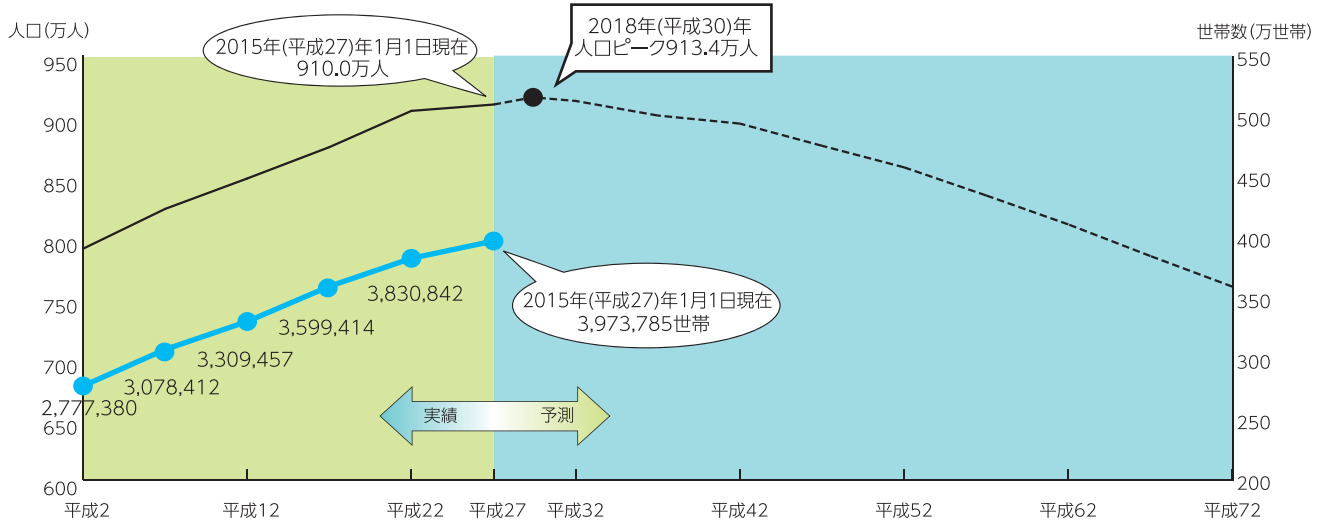
1 人口減少社会の到来

神奈川県は、高度経済成長とともに増加してきました。近年、人口増加率は下がってきていますが、今後数年は微増し、その後2018（平成30）年をピークに人口減少に転じると予測されています。人口減少の要因の一つとして、出生率の低下があげられます。

1975（昭和50）年に2.0人を下回ってから、低下傾向にあり、2013（平成25）年の合計特殊出生率は1.31人となっています。

地域毎に人口の増加率をみると、三浦半島地域圏や県西地域圏では、既に人口減少が進行しています。人口減少の進み方は地域によって異なり、過密な状況の都市と人口減少が進む地域とが出てくるのが考えられます。

神奈川県の総人口の予測

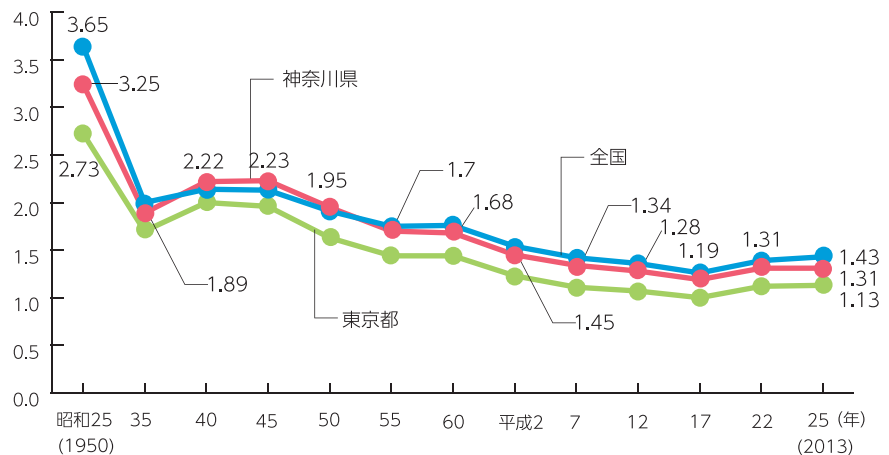


かながわグランドデザイン 第2期実施計画（総合政策課）
 神奈川県人口統計調査報告（平成26年1月から12月）（統計センター）
 神奈川県の人口と世帯（平成27年1月1日現在）（統計センター）より

合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率

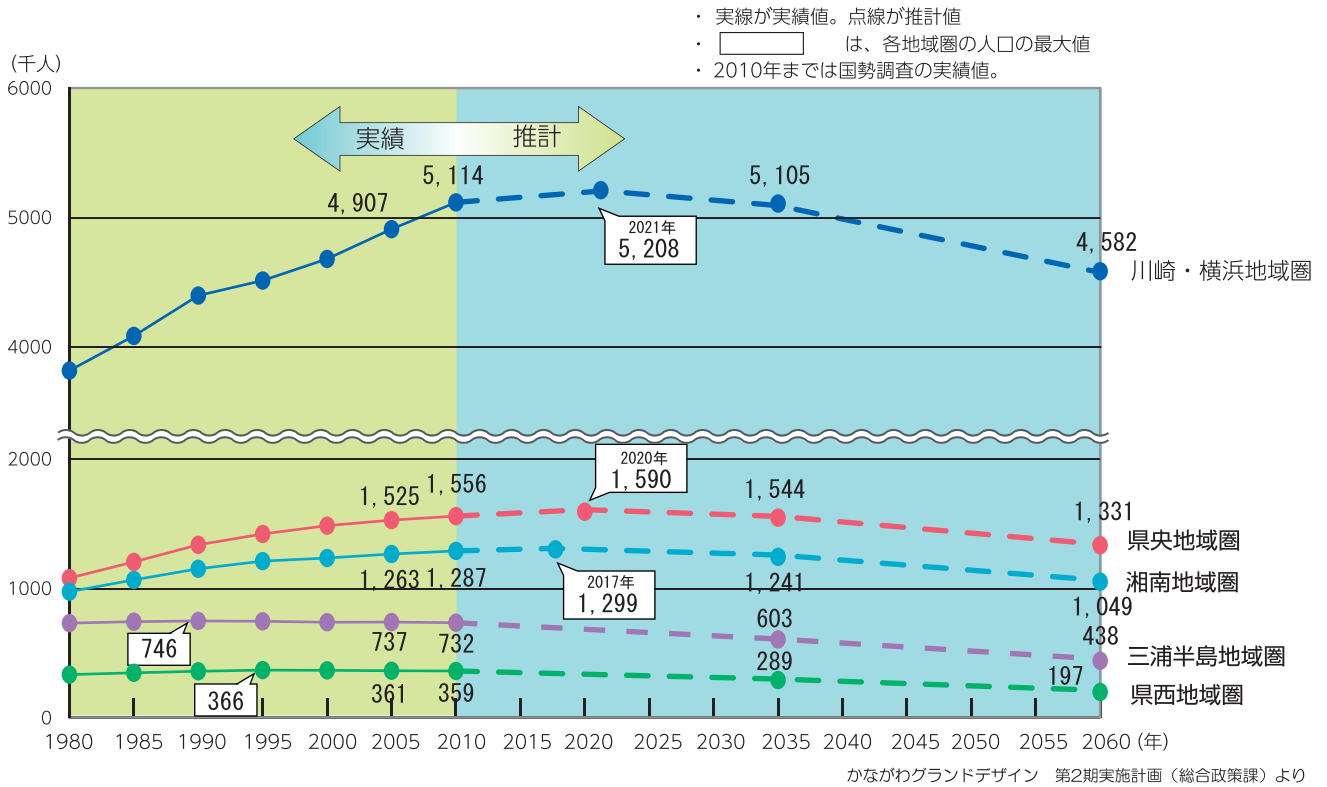
1人の女性が一生の間に産むと推定される子どもの平均数を示す数値と説明されることがありますが、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値です。一般に、この数値が、2.08を下まわると、人口を維持できないといわれています。



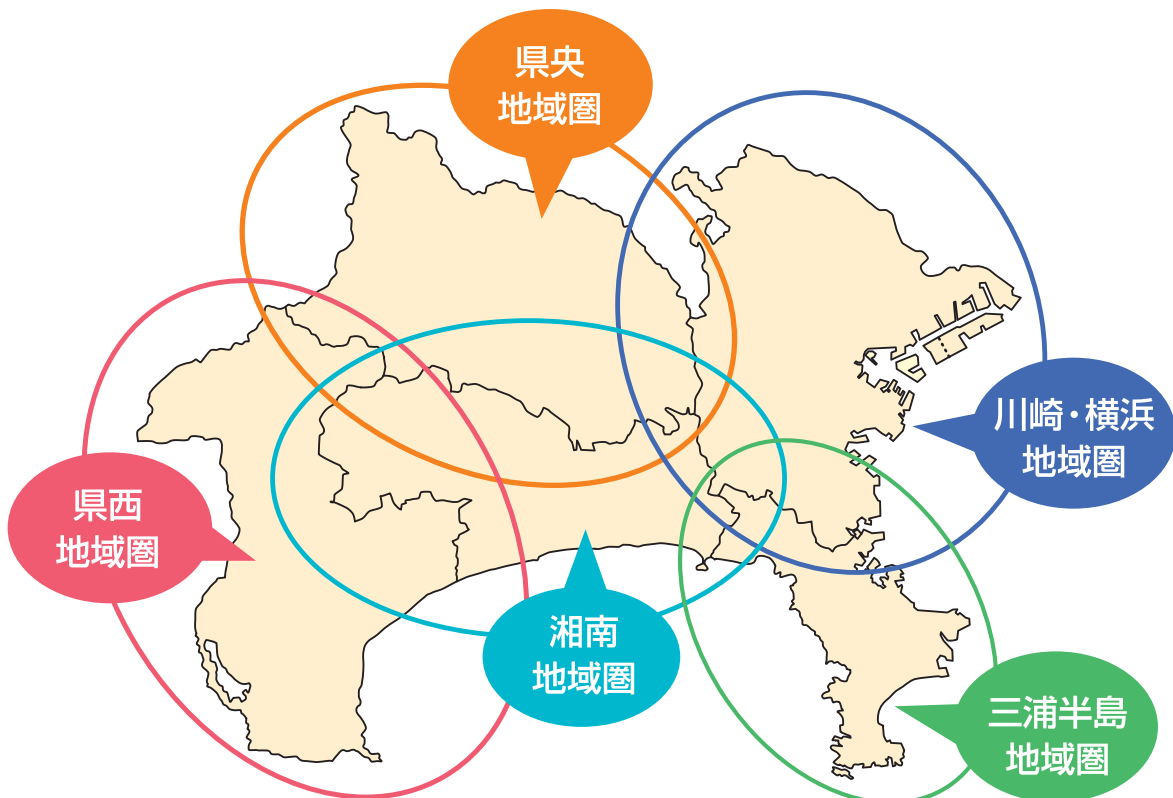
平成25年神奈川県衛生統計年報（神奈川県健康増進課）
 平成26年人口動態統計（東京都福祉保険局）平成25年人口動態統計（厚生労働省）より

地域で異なる人口増加率

地域政策圏別の人口推計



かながわグランドデザインによる地域区分（地域政策圏）



2 人口減少社会の中の都市

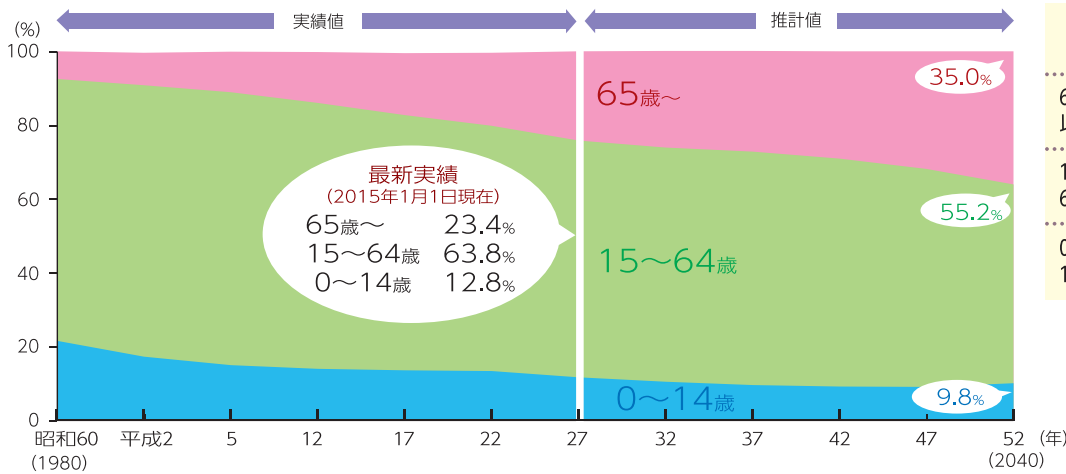
神奈川県では、全国と比較してみると、少子・高齢化は緩やかに進行していますが、出生率が低下を続ける中、既に超高齢化社会を迎えており、今後、団塊世代の高齢化とともに、更に高齢化が進むと予測されます。少子・高齢化が進む中、保育所等の利用率や就業総数に占める女性の割合が増加傾向にあり、これまで以上に女性が活躍できる社会の実現が求められてきます。

高齢者人口の増加とともに、高齢者のみの夫婦や高齢単身者の世帯も増加しています。また高齢者の利用交通手段は、バス利用が多くなっていますが、近年では、バス路線の廃止、減便などが進んでおり、モビリティの確保が一層重要になります。

人口や世帯の減少は、土地や建物の利用にも影響してきます。空き家は年々増加する傾向にあり、市街地における未利用地や空き家の増加は地域コミュニティの崩壊や生活環境の悪化につながることも考えられます。

少子・高齢化の進行

年齢3区分人口割合の推移（神奈川県）

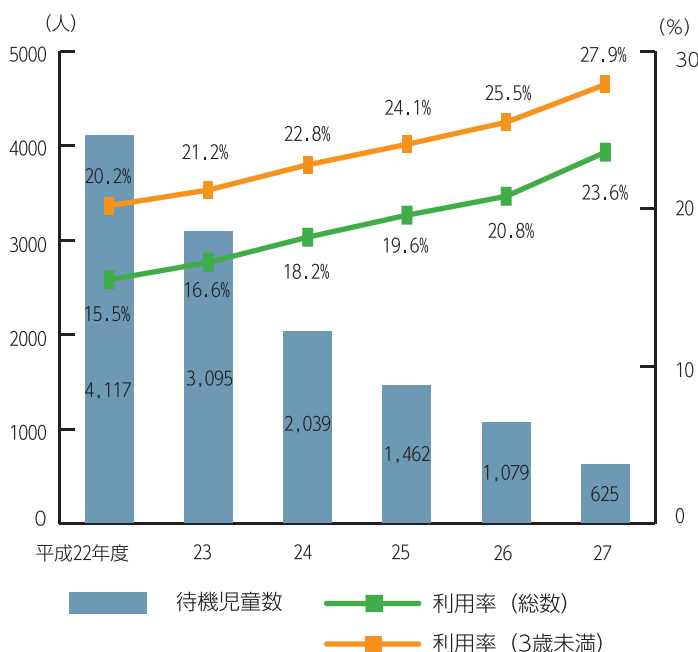


全国の数値

	2015 (平成27)	2040 (平成52)
65歳以上	26.8%	36.1%
15～64歳	60.7%	53.9%
0～14歳	12.5%	10.0%

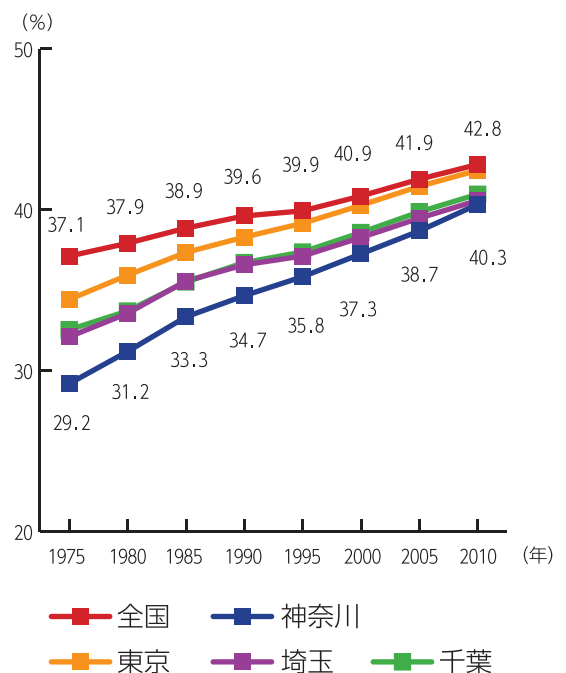
国勢調査（総務省統計局）
神奈川県年齢別人口統計調査結果（統計センター）
国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』（平成24年1月推計）
『日本の地域別将来推計人口』（平成25年3月）より

保育所等利用待機児童数の状況



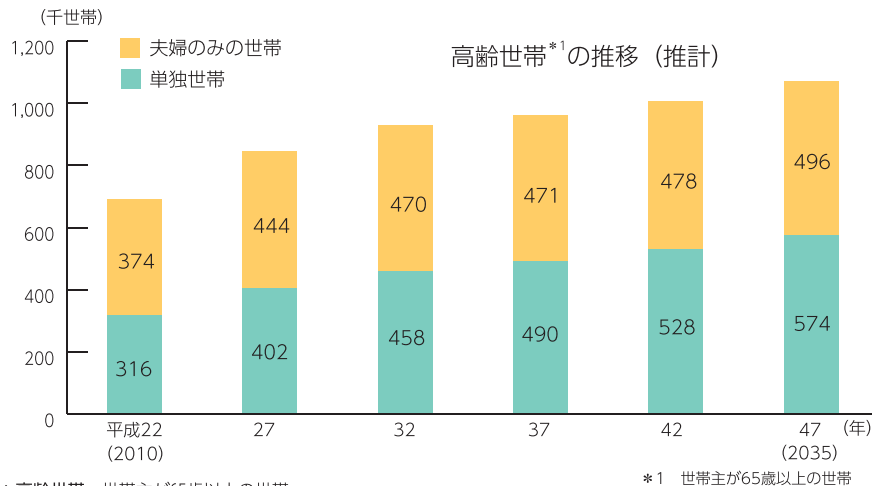
保育所等利用待機児童数の状況について（平成27年6月5日）
県民局次世代育成課 記者発表資料より

就業者総数に占める女性の割合の推移



国勢調査（総務省統計局）より

高齢者のみの世帯が増加する



* 高齢世帯…世帯主が65歳以上の世帯
 『日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）』（2014年4月推計）（国立社会保障・人口問題研究所）より

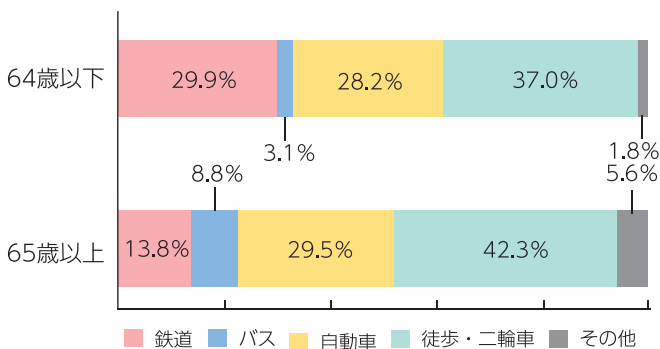
高齢者を取り巻く現状と課題

一般に、人口に占める65歳以上の割合が、14%以上を「高齢社会」、21%以上を「超高齢社会」といいます。2014年時点で高齢化率は23.2%と既に超高齢社会を迎えており、今後、更に高齢化が進むと予測されます。

高齢者の急激な増加は、高齢者向け住まいの整備、介護サービスの提供、介護者の確保など様々な課題への要因となります。

また高齢者を支える人口の減少により、介護者の不足、老々介護の負担増、社会保障費の急増、国や地方公共団体の財政負担の増大など様々な課題が生じます。

年齢階層別利用交通手段 (神奈川県)



第5回東京都市圏パーソントリップ調査
 (平成20年東京都市圏交通計画協議会)より

バス路線の廃止、減便などの状況

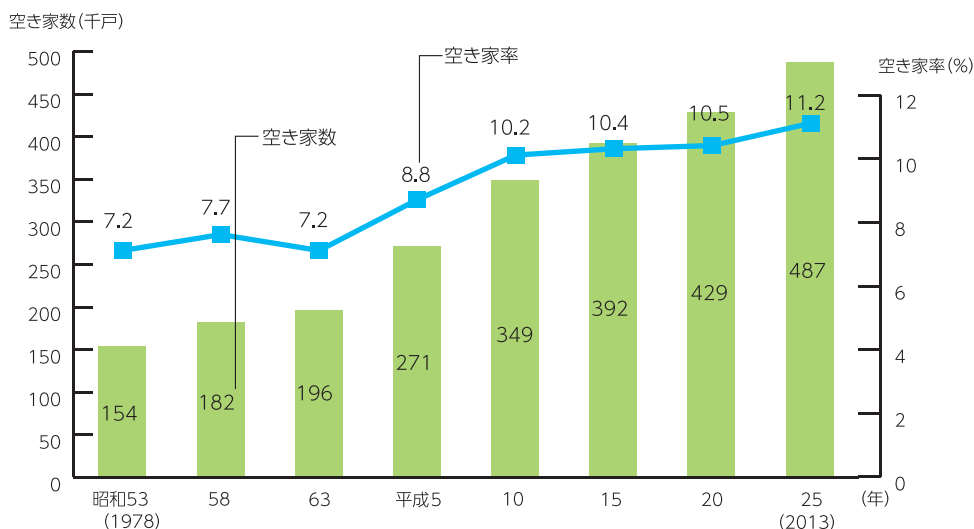
2009(平成21)年度～2013(平成25)年度

	川崎・横浜	三浦半島	県央	湘南	県西	計
廃止	6	0	7	4	18	35
減便等	3	0	1	0	31	35
合計	9	0	8	4	49	70

交通企画課資料より

年々増加する空き家

空き家数と空き家率の推移



平成25年住宅・土地統計調査 (統計センター)より